

「英国ウェールズ地方の豊かな自然と独特の歴史文化」（平成28年5月）

英国は、イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドの4つの地方から成っています。岡山県立大学は、ウェールズにあるバンガー大学と、夏休み中の学生英語研修などで20年来のお付き合いを続けており、この度、駆け足でしたが訪問する機会を得ました。

最寄りの国際空港があるマンチェスターはイングランドですが、列車で2時間余り移動する間に、ウェールズに入ります。鮮やかな新緑に英国らしい茶色のレンガ造りの家が映え、白色や赤色の花が咲き誇り、遠くには辺り一面黄色の菜の花畑や緑色の牧草地が広がって、羊や牛、馬などが草を食べています。こうした平坦な地形がウェールズに入ると一変し、100m～200mくらいの岩山が次々と現れて、海岸線に迫って来ました。そして駅名表示板は、いつしかウェールズ語と英語の併記になりました。

大学があるバンガー市は、人口約2万5千の小さな街ですが、その半分を大学の学生と教職員で占めているそうです。駅からほど近い丘の上に大学本部があり、各学部の建物は周辺に散らばっています。1884年に設立されたことから、学内のレストランやカフェなどいろいろな施設の名称に、この数字が付けられていました。英国では、キリスト教の大聖堂が建てられた場所は特別に重要な意味を持ち、大学が建てられるのも、市の名称を使えるのも、大聖堂があるからだと言いました。

学生の英語研修では、約3週間の滞在中に、近隣の興味深い場所を幾つも訪れていることから、私も行ってみました。市街地を一步離れると、周りは初夏の緑が美しい豊かな自然に囲まれ、イングランドに一步も引けを取りません。世界遺産のカナーヴォン城はウェールズ公であるチャールズ皇太子が戴冠式を行ったり、アニメの「天空の城ラピエタ」のモデルになったりしたことで有名です。コンウェイは、街そのものが城壁で囲まれており、お城だけでなく城壁の内側すべてが世界遺産でした。



「世界一」も近くに2つありました。世界で最も古い鉄製の吊り橋は、淡路島ほどの広さのアングルシー島とバンガー市を結ぶメナイ橋です。バンガー大学の学長さんがかつて倉敷市児島の「橋の博物館」を訪問された際に、メナイ橋が紹介されていることに気付き、たいそう喜ばれたそうです。世界一長い名前の駅

は、メナイ橋を渡った島側にありました。駅名はアルファベットで58文字でした。もともと観光客誘致のために19世紀に名付けられたとされていますが、駅前には立派な建物があって、お土産物屋さんなどが入っています。大型バスが何台も停まり、人がひっきりなしに出入りしており、ちょっとした知恵と工夫で観光振興が図れることが分かりました。



2万k㎡ほどに約300万人が住んでいるウェールズでは、バンガーはもとより、カナーヴォンもコンウェイも小さな街です。これらとは違って、ひととき大きな街が、アイリッシュ海に臨む一大リゾート地、スランディドノでした。

美しく湾曲した海岸線沿いは法規制によって、同じような高さや景観のホテルのみが建設を許されたようで、その美しさは格別です。夏になると英国中から保養客が押し寄せるとのことですが、訪れた5月上旬でも、かなりの人出で賑わっていました。

大聖堂を中心に栄えてきたバンガーでは、大学のキャンパスをはじめ、街中の看板類は、まずウェールズ語が先に来て、そして英語が併記されており、人々は皆、普段はウェールズ語で会話を行っていました。独自の歴史文化を誇りに思い、美しい自然の中で生活を楽しむ、そんなウェールズ地方の特色や魅力を、今回の訪問で垣間見ることができました。